

2020年11月

大学院進学を希望される皆さまへ

北海道大学大学院教育学院長
宮崎 隆志

教育学院に関心をお寄せ下さり、ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の拡大については、依然として予断を許さない状況にあることから、進学説明会を中止し資料の掲載のみとすることをお許しく下さい。

もとより大学院は、研究をする力を育成する教育機関です。もっと詳しく知りたい、本当のことを知りたい等の知的な動機が、研究という創造的な活動を成り立たせています。教育学院は人が育つことについて強い関心を持つ人々の集まりです。在学している院生の皆さんは、従来の常識や学説では説明できない現象に向き合い、新たな問いを立て、それを解く方法を日々模索しています。

そのような立場から、この数カ月の私たちの経験を振り返ると、現在のパンデミックは現代社会が抱える困難の断面を示したと言えます。社会的経済的な格差は命の格差に直結することが明らかになりました。命を守る砦たる医療システムが極めて脆弱な状況にあることも白日の下に晒されました。そして学校という場が機能停止に陥ると、家庭や職場、地域にどのような影響が及ぼされるのかを改めて考える機会にもなりました。現時点では最初の感染の波は越えられつつありますが、その波がもたらした甚大な影響は、今後もさらに深刻化していくはずで、人が育つための基盤が揺れ動く中で、誰もが人間らしく生きて成長するための条件とは何かを、より根源的な次元から再検討せざるを得ない局面に私たちは立っています。

もちろん皆さんが描きつつある研究テーマは多様でしょう。しかし、教育学研究である限り、その研究関心は必ず、人の育ちに即して現代社会が現す限界に起因しているはずで、言い換えれば、皆さんは現代社会の限界線の目撃者であり、その限界の先にある「人が育つ」社会を見据える探究者です。限界を超えることは決して一人の天才によって成し遂げられるのではなく、世界中に広がる多くの研究仲間と、そして実践の現場で現代の限界線に挑んでいる実践者との協働によって、はじめてなし得るものです。大学院で学ぶということは、そのような協働に参加することに他なりません。

このパンデミックを経験し、世界中の人たちが、この先の社会の在り方について真剣に考え始めるようになりました。他人任せではなく、今の時代を生きる私たちがその在り方を創り出していく責任を担わねばならないという自覚も広がっています。学問や研究が、この新たな意識に応えることができるか否かは、これまで以上に厳しく問われるでしょう。それは学問や研究への期待の表れでもあります。皆さんが、この責任と自覚を共有し、学問をもって応える努力を私たちともに進めてくださることを心から期待します。

以上